

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための  
自己点検・評価報告書

令和4年3月

御前崎市教育委員会

#### 〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

**第二十六条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

**第二十七条** 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

**第二十九条** 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

## 目 次

I はじめに .....	1
II 点検・評価について .....	2
III 重点取組 .....	3
IV 御前崎市教育委員会自己点検及び評価 .....	10
・ 5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上 .....	10
・ 5-1-2 人としての根を養うための、 市の特色を生かした教育の推進 .....	13
・ 5-2-1 生きていく力の基礎の育成 .....	17
・ 5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための 資質・能力の育成 .....	23
・ 5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備 .....	26
・ 5-2-4 子どもたちの心と体を支える 安全で魅力ある学校給食の提供 .....	27
・ 5-3-1 笑顔でつながる学びの輪の醸成 .....	29
・ 5-3-2 市民の豊かな心を育み、暮らしに寄り添う図書館づくり ..	30
・ 5-3-3 心身ともに健康な市民を目指したスポーツの振興 .....	32
・ 5-3-4 文化・芸術の継承と振興及び文化財の保護と活用 .....	34
V 令和3年度教育委員会の活動 .....	37
VI 総合評価 .....	39

## I はじめに

御前崎市教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の教育文化分野の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づくとともに、御前崎市教育大綱及び御前崎市教育振興基本計画の基本方針である、「園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等がスクラムを組み、協働することによって、1 思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つ 2 生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つ」ために、教育行政を展開しています。そして、その年度の主要施策及び取組について、当市の教育を説明する『スクラム御前崎』の中で示しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）第26条では、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすために、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて、教育委員会では令和3年度『スクラム御前崎』で示した主要施策及び取組の自己点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、市内の学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から常葉大学教育学部 堀井啓幸教授に外部評価をお願いし、ここに報告書として取りまとめました。

今回の点検及び評価を令和4年度の施策に活かし、基本目標の達成のためにそれぞれの取組を推進してまいります。

令和4年3月

御前崎市教育委員会

教 育 長 河原崎 全

## Ⅱ 点検・評価について

### 1. 趣 旨

御前崎市教育委員会は、地方教育行政法第 26 条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

### 2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和 3 年度「スクラム御前崎」に沿って、今年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎 P. 1 の「重点取組」として掲げた 17 の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

### 3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和 3 年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 増田 美恵子 氏、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行 氏の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

### 4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、今年度執行予定の事業を、今年度 3 月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として 0～100% で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の 5 段階で表しました。「妥当性」とは、「第 2 次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

新型コロナウイルス感染症により実施できなかった事業については、「－」で表しています。

### Ⅲ 重点取組

今回教育委員会の自己点検・評価についての報告書をまとめるにあたり、令和3年度重点取組として掲げた目標に対する評価をまとめました。今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について ○妥当性 5・・・非常に高い 〃 4・・・高い 〃 3・・・どちらともいえない 〃 2・・・低い 〃 1・・・非常に低い ○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	◎今後の方向について ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止
---	--

#### 1. 生活習慣(学習習慣)の定着

市スクラム・スクール運営協議会や学校スクラム・スクール運営協議会にて「ゲーム障害・ネット依存」の問題や各校の現状と課題について協議した。その協議を踏まえ、学校教育と連携し、地域、家庭への意識啓発ができた。

来年度以降も学校教育課と社会教育課とで連携し、子どもを取り巻く環境と生活習慣の課題を認識しスクラム・スクール運営協議会等を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
スクラム・スクール運営協議会	100	5	5	5	4	継続
家庭教育支援の推進	90	5	4	4	5	継続
「スクラム御前崎の集い」の開催	90	5	4	4	4	継続
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催	70	4	5	4	4	継続
平均	87.5	4.8	4.5	4.3	4.3	

#### 2. 市の特色を活かした教育や体験による愛郷心の育成

市内小学生を対象に、浜岡原発見学や中電職員による発電の仕組の学習を実施することによって、電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断するきっかけとなった。御前崎クエストでは、地域資源を活かした体験学習を実施し、体験学習を通じ身近にある魅力に気づくことで地域に興味を持ち、好きになる活動ができた。

来年度以降も、市の特色を活かした独自のカリキュラムにより、郷土を愛する人材を育成をしていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
青少年リーダー育成事業「御前崎クエスト」	90	5	5	5	4	拡大
エネルギー教育の推進	100	5	5	5	5	継続
マリンスポーツフェスタの開催	100	5	4	3	4	継続
平均	96.7	5.0	4.7	4.3	4.3	

### 3. 読書・読み聞かせの推進

「第2次市子ども読書活動推進計画」に基づき、各小中学校では学校図書館司書と図書担当職員が協力して読書活動の推進を行い、学校図書館での1人当たりの貸出冊数が増加した。また、市立図書館では園への読み聞かせや学校・園への巡回貸出など様々な取組を行い、子どもの読書習慣定着の支援をすることができた。

来年度以降も引き続き、園・学校・地域・市立図書館の相互連携により、読書環境の充実を図っていく。

	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学校における読書活動の推進	100	5	5	5	5	継続
市立図書館と学校図書館との連携	100	5	5	5	5	継続
園の読書環境の整備	100	5	5	5	5	継続
市立図書館の充実した資料収集	100	4	4	3	3	継続
読み聞かせなどのボランティアとの協働	70	4	5	4	5	継続
子どものための読書環境の整備	100	5	5	4	4	継続
平均	95.0	4.7	4.8	4.3	4.5	

### 4. 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続

アプローチ・スタートアップブックを作成し、各小学校の入学説明会で説明しながら配布をした。園から就学に向けての支援を丁寧に行い、子どもや保護者の安心につながる働きかけを充実させた。また、保育の質の向上に向けた研修では、特に乳児研、実技研は即保育実践につながり効果的であった。

来年度以降も乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続のため、継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
アプローチ・スタートアップブックの活用	100	5	5	4	5	継続
スクラム研究会	100	5	5	4	3	転換
自発的な遊びや体験を充実させる環境作り	100	5	5	5	4	継続
教諭・保育士対象各種研修会	100	5	4	4	5	継続
平均	100.0	5.0	4.8	4.3	4.3	

## 5. 家庭教育支援の充実

各小中学校において親子で講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について、保護者と現状と課題を共有し、家庭教育支援の充実を図った。遊び塾・だれでも食堂もぐもぐ・家庭教育学級などでは家庭教育支援に係る場づくりができ、こども未来課事業でも周知してもらった。多様な居場所ができることで、保護者が安心して子育てができるよう支援した。

来年度以降も関係課と連携して取り組んでいく。

	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
家庭教育支援の推進	90	5	4	4	5	継続
家庭教育支援員の配置	100	5	5	4	4	継続
家庭教育学級への支援	70	5	5	4	4	継続
療育指導員による療育の推進と充実	100	5	5	5	4	継続
平均	90.0	5.0	4.8	4.3	4.3	

## 6. 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組

日常の教育活動において子どもに寄り添った丁寧な指導を展開した。また、いじめ問題対策連絡協議会では、警察・主任児童委員・小中学校生徒指導担当がいじめの防止等に必要な事項を協議したり、連携調整を図ったりした。各校のいじめ防止基本方針の見直しも進めた。

来年度以降も互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
いじめ問題対策連絡協議会	75	5	4	5	5	継続
平均	75.0	5.0	4.0	5.0	5.0	

## 7. 基礎学力の向上と得意分野の伸長

標準学力調査においては、全国平均正答率との差は学年によって異なるが、専門家による分析を行い指導の改善に生かした。また、昨年度は実施できなかったスクラム研究会を実施し、市内園・学校の教職員が一堂に会し、いま求められている授業観について共有することができた。

来年度以降も基礎学力の向上と得意分野の伸長を図るための取組を継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市独自の学力調査の実施	100	5	5	5	5	継続
スクラムゼミナール	100	5	4	4	5	継続
教職員対象各種研修会	100	5	5	5	5	継続
外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置	100	5	5	5	5	継続
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
平均	100.0	5.0	4.8	4.7	5.0	



## 8. 1人1台端末の効果的な活用

ICT支援員による支援を各校週1回に増やし、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図った。また、教室内周辺機器の整備も行い、ICT機器の使用率向上に繋がった。6校(小学校4校、中学校2校)でネット依存防止の講習会を行ったり、ネットパトロールを依頼している会社による講習会を行ったりすることで、児童生徒及び家庭での情報モラルに関する意識が高まっている。

来年度以降も多方向からのアプローチにより、1人1台端末の効果的な活用を図っていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
情報モラル学習の推進	90	5	5	5	4	継続
ICT支援員の配置	100	5	5	4	5	継続
学校のICT環境の向上	100	5	3	3	5	拡大
平均	96.7	5.0	4.3	4.0	4.5	

## 9. 学校教育・社会教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり

全国体力運動能力等調査の結果、小中学生ともに全国平均値より高い結果であった。この結果を踏まえ、来年度以降も学校体育の充実を図るとともにスポ少やクラブチームでの活動も奨励し、児童生徒の体力の向上に取り組んでいく。睡眠不足や視力低下などの健康課題についてはスクラムスクール運営協議会でも課題として取り組み、家庭との連携を図っていきたい。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用	100	5	4	4	5	継続
軽スポーツ教室・大会の開催	100	4	4	4	3	継続
静岡県市町対抗駅伝への参加	100	4	4	4	4	継続
平均	100.0	4.3	4.0	4.0	4.0	

## 10. 不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応

中学校では前年度に比べ不登校生徒が減少するとともに、昨年度まで適応指導教室に在籍していた児童生徒はすべて学校復帰を果たした。特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加しているが、就学支援委員会等でその子どもに合った学びを丁寧に検討し、各校では指導に生かしている。

来年度以降も不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応について充実を図っていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「しおかぜ先生」の配置	100	5	5	5	4	継続
学習支援員等の配置	100	5	5	5	5	継続
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議	100	5	5	4	4	継続
適応指導教室「サンルーム」	100	5	5	5	5	継続
個性伸長支援員の配置	100	5	5	5	5	拡大
療育指導員による療育の推進と充実(再)	100	5	5	5	4	継続
平均	100.0	5.0	5.0	4.8	4.5	

## 11. 学校再編計画の検討

将来を見通した学校再編計画の検討をするため、学校再編検討委員会を設置し、今年度4回の検討委員会を開催した。学校規模、望ましい通学時間・学区の考え方、学校に必要な施設機能について意見を交わし、市民が思う学校の姿について聞く機会となった。来年度は、公聴会・パブリックコメント等を行い市の学校再編計画を策定していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学校再編計画の検討【新規】	100	5	4	5	5	継続
平均	100.0	5.0	4.0	5.0	5.0	

## 12. 新学校給食センターの円滑な稼働

新学校給食センターは昨年9月から提供を開始した。安心安全な給食を提供するため、委託業者と連携し、衛生管理・食物アレルギー事故防止に努めた。また、食育指導を行うことにより、残食の減少・好き嫌いを減らすなど『食』の意識を高めた。

来年度以降も引き続き、安心安全かつおいしい給食の提供に努めていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
新給食センターの建設	100	5	5	3	3	完了
食育指導の推進	100	4	4	4	4	継続
地産地消の推進	70	5	4	3	3	継続
安全、安心、おいしい給食の提供	90	4	4	4	4	継続
アレルギー対応	100	4	4	4	2	継続
平均	92.0	4.4	4.2	3.6	3.2	

## 13. ライフステージごとの学びの提供

ライフステージごとの学びの姿と場を示す「学びの航海図」を作成し、生涯学習ガイドブックを活用しての市民が学び続けることのできる仕組みづくりができた。また、シニアスクールでは、年間5講座を実施した。受講者の満足度も高く地域とともにある学校づくりの推進につながっている。

これらの事業について来年度以降も継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
シニアスクール	70	5	5	5	4	継続
キャリア教育の充実	100	5	5	5	5	継続
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実	100	5	4	5	4	継続
「学びの循環」の仕組みづくりの推進	100	5	5	4	4	継続
社会教育学級活動への支援	70	5	4	4	4	継続
平均	88.0	5.0	4.6	4.6	4.2	

#### 14. 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興

コロナ禍でも楽しく学び参加できる様々な生涯学習事業を実施し、多くの市民に幅広い学習機会を提供することができた。

来年度以降も引き続き文化協会やスポーツ協会などの各団体が主体となった活動を支援し、市民ニーズの把握と学びの循環を意識する中で、生きがいづくりに繋がる活動を推進していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「学びの循環」の仕組みづくりの推進(再)	100	5	5	4	4	継続
社会教育学級活動への支援	70	5	4	4	4	転換
図書館での展示や講演会など文化事業の開催	90	4	4	3	4	継続
御前崎市振興公社との連携によるスポーツ振興	70	5	4	3	3	継続
県立池新田高校との連携	100	4	4	3	4	継続
文化・芸術にふれる機会の提供	80	4	4	4	3	継続
市文化祭の開催	70	4	4	3	3	継続
御前崎市振興公社との連携による文化振興	70	4	4	3	3	継続
平均	81.3	4.4	4.1	3.4	3.5	

#### 15. 各文化施設の中長期改修計画及び社会教育施設使用料の検討

各文化施設の施設・機器が老朽化してきており、予算の範囲内で修繕工事を実施している。また、昨年度実施した文化施設劣化状況調査の結果に基づいて、今年度、文化施設の中長期保全計画を策定した。

来年度以降、公共施設マネジメントとして施設のあり方を再検討するとともに、中長期保全計画を基に計画的な修繕工事を実施していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市民会館・文化会館等の整備・改修	100	5	5	4	3	継続
平均	100.0	5.0	5.0	4.0	3.0	

#### 16. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

学校においては、新しい生活様式を日常化し、感染予防の徹底に努めた。感染者が出た場合は、迅速かつ適切な対応を行い、感染拡大防止に努めた。生涯学習講座においては、感染症対策に係る注意喚起を図るとともに、状況に応じて休講するなど感染拡大防止に努めた。

来年度も感染状況に応じた対策、意識啓発に努めていく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「新しい生活様式」の実践	100	5	4	4	4	継続
学校や社会教育施設での消毒の徹底	100	5	5	5	4	継続
感染者への偏見・差別の防止PR	100	5	4	4	4	継続
平均	100.0	5.0	4.3	4.3	4.0	

## 17. 教職員の働き方改革の推進

出退勤管理を行い、時間外勤務の削減に努めた。各校、時間外勤務時間の減少傾向が見られる。また、夢コーディネーター(県教委事業)による学校の働き方改革によって、業務改善に努めている。来年度以降も教職員の働き方改革の推進について継続していく。

事業	執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
県教委「学校の働き方改革推進プロジェクト」との連携	100	5	4	3	3	継続
各園・学校への調査	100	5	4	3	3	継続
各園・学校での取組への支援	100	5	4	3	3	継続
平均	100.0	5.0	4.0	3.0	3.0	

#### IV 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価

重点取組の点検・評価した施策についての具体的な事業を自己点検評価シートにまとめました。

今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について	◎今後の方向について
○妥当性 5・・・非常に高い	①継続
〃 4・・・高い	②完了
〃 3・・・どちらともいえない	③拡大
〃 2・・・低い	④縮小
〃 1・・・非常に低い	⑤転換
○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	⑥中止

##### 5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
スクラム・スクール運営協議会 (学校教育課)	1	100%	事業の妥当性	5	<p>御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣上の課題として「早寝早起き朝ご飯など基本的な生活習慣」「ゲーム障害・ネット依存」の問題について現状と課題を共有した。また、学校スクラム・スクール運営協議会を各校で2～3回開催し、各校の現状と課題について、学校・家庭・地域が協議した。さらに、学校スクラム・スクール運営協議会において浜松学院大学短期大学部長 今井昌彦教授の講演会を開催し、親子で「ゲーム障害・ネット依存」の問題について考える場を設けた。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	4	
学校支援地域本部〔地域学校協働本部〕 (学校教育課)	-	100%	事業の妥当性	5	<p>園・学校の要望に応じて、登録ボランティアを派遣している。園・学校からは、継続してボランティア派遣の依頼があり、地域の貴重な人材を活用することができている。今年度は、建設業組合による環境整備や家庭科授業へのミシンボランティア、待機看護師の派遣、中学校技術科木材加工への支援などが行われた。2人の地域コーディネーターが主となり、205人35団体の登録ボランティアと園・学校との橋渡しを行い、地域全体で学校教育を支援することができた。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	4	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
シニアスクール (学校教育課)	13	70%	事業の 妥当性	5	①継続 生涯学習、地域に開かれた学校づくりに繋がるため、事業を継続する。また、コロナが収束すれば、シニアスクールの講座と総合的な学習(教科)を関連付けることにより、開かれた教育課程の実現が期待できる。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	4	
防災教育の推進 (学校教育課)	-	70%	事業の 妥当性	4	①継続 これまでのように、地域防災訓練への参加を各校で呼びかけ、児童生徒が参加できるようにする。ジュニア防災士などの県の事業も活用しながら、授業や学級活動などで防災についての内容を取り入れ、地区で活躍できる中学生(小学生)の育成を図る。防災教育推進についての連絡会議等の実施を進め地域とも連携を図っていきたい。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	5	
キャリア教育の充実 (学校教育課)	13	100%	事業の 妥当性	5	①継続 職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験や講座の内容を工夫し、積極的に地域の方たちとかかわりを深める。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
ウェブサイトなどによる広報活動の充実 (教育総務課・学校教育課・社会教育課・各学校)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>昨年度の園評価や今年度の各園だよりを掲載するページを新規作成し、幼児教育に関する情報発信ができた。また、新型コロナウイルス感染症に対応した教育活動について、保護者宛通知をきずなネットだけでなく、ウェブサイトにも掲載することで、広く情報発信ができた。</p> <p>浜岡中学校新校舎について、広報おまえぎきとウェブサイトに掲載し、市内外に情報発信した。</p> <p>教育委員会定例会、臨時会の会議録をウェブサイトに掲載し、情報発信に努めるとともに、掲載中の情報を随時修正した。新たに、御前崎市学校再編策定検討委員会の会議録と、新学校給食センターの稼働開始に合わせ献立表、提供する給食写真(毎日)の掲載を始めた。</p>	<p>①継続</p> <p>市民への情報提供は、施策立案の上でも重要な業務であることから、今後も随時、情報をウェブサイト等に掲載し、市民の理解や協力を得られるよう努める。また、スマホへの対応、市民からの意見聴取等更なる工夫をしたい。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
総合教育会議・移動教育委員会の実施 (教育総務課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	3	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	<p>総合教育会議を2回開催した。第1回は「令和3年度全国学力学習状況調査、標準学力調査の結果について、今回の結果を分析・考察した報告、前年調査との比較による課題等を共有しながら、市長の教育に関する考えを確認するとともに、市長と教育委員で意見交換をすることができた。第2回は、来年度の具体的教育施策について協議した。</p> <p>移動教育委員会を1回開催した。学校図書館司書と教育委員が話し合い、御前崎市の学校における子ども読書活動の現状と課題を把握した。</p>	<p>①継続</p> <p>教育、文化の振興に関する重要施策について引き続き検討を重ねる必要があることから、年2回の総合教育会議は継続する。また、各分野の現場の意見を聞く機会として移動教育委員会も継続して開催していく。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	3												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	3												

5-1-2 人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>浜松学院大学短期大学部長 今井昌彦教授を招聘して、「メディアとの安全な付き合い方」について児童生徒・保護者に対する講演を6校(小学校4校、中学校2校)で行った。さらに、ネットパトロールを依頼している会社(NPO法人e-lunch)による講演を全校で行った。また、園・小・中の職員で、子どもたちのネット利用状況について共通理解を図る研修会も実施した。各園・各校の指導によって、メディアと安全に付き合って生活する方法について、家庭で考えるきっかけ作りができています。</p>	<p>①継続</p> <p>スクラム・スクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を今後も実行する。児童生徒、保護者に実施したネット利用状況アンケートをもとに、児童生徒・保護者それぞれに対する支援を進めるため、事業を継続する。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
家庭教育支援の推進 (学校教育課)	1・5	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>御前崎市スクラム・スクール運営協議会を2回開催し、子どもたちの生活習慣の問題として「ゲーム障害・ネット依存」の現状と課題を園・学校・家庭・地域の代表と共有した。また、社会教育課と連携し、「スクラム御前崎の集い」を開催し、家庭教育支援を推進した。</p> <p>学校スクラム・スクール運営協議会では、親子で浜松学院大学短期大学部長 今井昌彦教授の講演を聴く機会を設け、「ゲーム障害・ネット依存」の問題について、保護者と現状と課題を共有し、家庭教育支援の充実を図った。</p>	<p>①継続</p> <p>全国学力学習状況調査及び標準学力調査の質問紙調査から、本市の子どもたちはネットを長時間利用する割合が全国平均より高い状態が続いている。今後も家庭教育支援を推進し、子どもたちの生活習慣の課題を解決する必要があるため、事業を継続する。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												
アプローチ・スタートアップブックの活用 (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>新たに子どもの様子の写真を入れた。年度内に各小学校の入学説明会に出向き、説明しながら配付した。園から就学へ向けての支援を丁寧に行い、子どもや保護者の安心につながる働きかけを充実させた。</p> <p>家庭教育で大切にしてほしい「早寝・早起き・朝ごはん」や「ネット依存・ゲーム障害」のスクラムの取組についても掲載しているので、市が一体となって取り組んでいることについて呼びかけを行うことができた。</p> <p>また、幼小接続の重要性について、園・小学校の職員それぞれが研修会などを通して意識が高まってきている。</p>	<p>①継続</p> <p>内容が厳選されまとまってきたので、大きな変更はせず、修正を加えてできるだけコストを抑え作成していく。各小学校の入学説明会での保護者に向けての配布と講話は継続していきたい。園・小学校の公開保育や公開授業に互いに参加しあひ、具体的な子どもの姿から幼小の接続についての理解を深めていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												



事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
サポート隊 (社会教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	<p>地域で子どもたちを守り育てる運動の一環として、987人のサポート隊員によって登下校時の見守りと声かけを地域全体で行なった。活動における安全性確保のため、反射材付きのビブスの配布も行った。不審者情報は年間6件と例年同程度の数で推移しており、事件等につながった事例はなく、活動が抑止力となっている。</p>	<p>①継続</p> <p>全国的に子どもが被害者となる事件事故が絶えない現状であり、今後も地域との連携をし、地域で子どもを守り育てる運動を継続し、子どもの安全を守る。</p>
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	5			
		効率性 (人員)	4			
こども110番の家 (社会教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	<p>市内小学校PTAが中心となり、学区内の商店等に参加の継続・新規登録を確認し、今年度は430件の登録があった。</p> <p>また、「こども110番の家」の旗を目印としていつでも子どもたちが助けを求められる体制をとっている。地域及び子ども向けに活動を周知するチラシを配布し、共通認識をもつよう努め、子ども達の安全安心を確保できた。</p>	<p>①継続</p> <p>「こども110番の家」の目印となるプレートや旗は、屋外へ設置するため数年で劣化してしまう。そのため、コスト面を考慮するとともに、子ども達が見つけやすい旗に統一する。</p>
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
声かけ運動 (社会教育課)	-	100%	事業の 妥当性	4	<p>県が実施している「地域の青少年声掛け運動」に協働し、参加者を募っている。園・学校・市職員・地区役員等の新規賛同者を広める活動をした結果、今年度新たに129人の新規参加者を迎え、累計登録者は5,277人となった。青少年は地域で育てる意識を醸成できた。</p>	<p>①継続</p> <p>組織的な運動ではなく、個人的な活動のため、個々の取組を地区懇談会や青少年健全育成会議などにおいて共有する取組を検討する。</p>
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	5			
青少年補導員活動 (社会教育課)	-	70%	事業の 妥当性	4	<p>コロナ禍で中止となるイベントが多く、活動する機会が少なかったが、夏と冬の県下一斉補導活動と、感染症対策により2会場開催となった成人式での巡視は、計画どおり実施した。</p> <p>また、青少年補導員が各自の地域において補導活動を実践することができた。</p>	<p>④縮小</p> <p>青少年を取り巻く環境が変化している。コロナ過もあり、夜間等の出歩きによる非行も減少していることから、補導員としてのあり方や活動を再検討する。</p>
		効果性	3			
		効率性 (コスト)	3			
		効率性 (人員)	3			

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
「スクラム御前崎の集い」の開催 (社会教育課)	1	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>昨年度から、スクラム・スクール運営協議会と共催し、学校、家庭、地域、行政が連携して子どもを守り育てるためのさらなる意識付けを行っている。</p> <p>昨年度延期となった東北大学瀧靖之教授による「スマホ・ネット依存、ゲーム障害から子ども(家庭)を守る講演会」(オンライン方式)、御前崎クエストの活動報告を行い、青少年健全育成における様々な体験活動の大切さを地域へ伝え、機運を高めた。</p>	①継続	<p>来年度もスクラム・スクール運営協議会での重点取組であるゲーム障害・ネット依存防止への取組を、青少年健全育成の観点からも連携し取り組む。</p> <p>今年度は感染対策によりZOOMでの開催だったため、来年度は瀧教授を招いた講演会と、御前崎クエストの活動発表によって青少年健全育成における体験活動の大切さを伝える。なお、開催内容を青少年健全育成地区推進員を中心に、地域に広く内容の周知をし、地域で子どもを守り育てる意識をさらに醸成していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
成人式の開催 (社会教育課)	-	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>コロナ感染拡大防止のため、浜岡・御前崎地区での分散開催にするとともに、健康チェック表の提出と抗原検査の実施した。351名中280名の参加があった。なお、昨年同様 市内8か所にフォトスポットを設置した。記念撮影の場として、新成人に利用された。</p>	①継続	<p>来年度は感染対策を踏まえながらも、1会場での式典実施を検討する。</p> <p>令和4年4月の民法改正により成人年齢が引き下げとなるが、引き続き20歳という人生の節目を祝う式典として開催していく。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
青少年リーダー育成事業「御前崎クエスト」 (社会教育課)	2	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>小中プログラム55名・リーダープログラム10名での活動を実施した。</p> <p>昨年度同様、コロナ感染防止の観点から、小中プログラムは午前・午後の2部構成とした。異学年との交流や自主的な自然活動・郷土の再発見をとおし集団生活適応力、社会ルール、地域愛の醸成ができた。</p> <p>リーダープログラムに関しても、自然体験における実益的な知識を体験を通じ、地域で活かせるスキルを身に付けるとともに、共同活動をとおり参加者間の繋がりができた。</p>	③拡大	<p>今後も地域資源を活かした事業による人材育成を継続する。</p> <p>幅広い年代の方々を受け入れる体制づくりを検討するとともに、更なる「御前崎クエスト」への周知や関心の促進を図る。</p> <p>新設される低学年プログラムの募集や体制づくりを検討する。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
親子工作教室 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	<p>20家族43名の小学生親子の参加があった。今年度で38回目を迎えた歴史ある教室であり、木のぬくもりを親子で体験できる貴重な場となっている。</p> <p>また、市内木材業者から資材の提供を受け、地元大工業者12名に指導者として全面協力している。毎年参加している親子もおり、親子の交流促進、地域の方が指導する中で交流が生まれ、募集開始とともに定員となる人気のある教室である。</p> <p>今年度も親子共同作業をとおり親子のふれあいが図れた。</p>	①継続	「生涯学習ガイドブック」に掲載し、広く周知するとともに、学びの循環の一つであることを意識し、今後も事業を継続する。
事業の 妥当性	5													
効果性	4													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	4													
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催 (社会教育課)	1	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	4	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	4	<p>青少年健全育成会議は地域、学校、行政の関係者で組織しており、会議では地域の青少年を取り巻く現状課題、重点取組を情報共有している。各地区の推進委員に対し、市重点取組「早寝早起き朝ご飯など基本的生活習慣の啓発」「ゲーム障害やネット依存への対策」を明記したものを通知し、各種地区組織への周知が図られた。</p>	①継続	今後も地区推進組織と情報共有を図り地域全体で青少年健全育成に取り組む。
事業の 妥当性	4													
効果性	5													
効率性 (コスト)	4													
効率性 (人員)	4													

5-2-1 生きていく力の基礎の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
市独自の学力調査の分析と活用 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	5月に小学校2年生から5年生、中学校1年生・2年生を対象に学力調査及び質問紙調査を実施した。静岡大学 村山功教授に御指導いただき、結果を分析し市全体・各学校・児童生徒の課題を明らかにし、指導の改善に生かすことができた。各学年平均正答率は、小学2～4年生は全国値との差が国語マイナス5.8、算数マイナス7.9であるが、同じ学年集団の経年結果をみると国語マイナス1.3、数学マイナス2.0と大きな改善傾向がみられる。また、保護者にも早い段階から学習状況について知らせることができ、家庭学習や生活習慣について見直す機会となっている。	①継続	子どもたちの現状や当市の教育の今を客観的に知る上では重要なものであり、各学年の経年比較もよい資料となっている。来年度も今年度同様に実施し、平均正答率を各学年とも1%以上高くなるように支援する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課)	9	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	市内の子どもたちの運動能力・運動習慣を客観的に分析するよい機会となっており、今年度、小中学生ともに全国平均値より高い結果であった。分析結果をもとに、市全体・各学校・児童生徒の課題を明らかにし、改善に向けて取り組んでいる。	①継続	学力と同時に子どもたちの体力の状況等についても分析・活用し、心身ともに健やかな成長の支援に繋げる。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
スクラム研究会 (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	昨年度はコロナ禍のため実施できなかったが、今年度は、第一小学校で島根県立大学 齊藤一弥教授の師範授業、上智大学 奈須正裕教授と齊藤教授の講演会を開催した。園・学校の教職員が一堂に会し、今求められている授業観について共有する貴重な機会となった。小・中学校では、園で大切にしている体験的な活動を生かし、子どもが学びの主体となるための授業改善に向け、知見を深めることができている。	⑤転換	各校持ち回りによる開催は、コロナ禍において担当校教職員の負担が大きいため、各校で実施するスクラムゼミナールに、他園・学校の教職員が参加しやすい体制を整備する。また、スクラム合同研修会を夏季休業中に開催し、小中一貫で教科指導を推進する体制を整備する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	3													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
スクラムゼミナール (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	各校で自校の研修の成果と課題を、新学習指導要領策定に関わった上智大学 奈須正裕教授による客観的な分析をもとに、検証する良い機会となっている。また、学習指導要領の全面実施に伴い、目指すべき授業像や学習指導要領で示されている「資質・能力」について共有を図ることができている。	①継続	年々、各校の奈須教授への依頼内容が変化し、各校の実態やニーズに合った研修の機会となっている。今年度はリモートによる実施が大半であったが、来年度は訪問による実施を進め、さらに各校の授業改善を進める。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
教職員対象各研修会 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。授業改善推進委員会では、御前崎市授業改善テーマの実現に向け、御前崎市内の児童生徒の良さや課題を分析し、子ども主体の授業づくりへと各校の研修へ役立てた。ICT推進委員会では、今年度からスタートしたGIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台端末の活用について研修を進めた。3年目教員は、学力向上コンサルタントの指導のもと、教育実践を研究論文にまとめ、教育団体の教育研究奨励賞に応募し、表彰された教職員もいた。</p> <p>それぞれの研修は、各立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p>	①継続	教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させる。各種研修会における目標を明確にし、達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

※GIGAスクール構想:1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備

外国語指導助手(ALT)及び英語活動指導員の配置 (学校教育課)	7	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	ALT2人と英語活動指導員、英語専科を各1人ずつ小中学校に派遣し、昨年度から完全実施となった小学校外国語活動・外国語の充実を図った。昨年度は英語専科の中学校への配置が少なくなってしまったので、今年度は浜岡中への配置を増やして2中学校の差を減らした。ALTと英語活動指導員、英語専科がいることで、子どもたちが生の英語に触れ、楽しく学習できている。	①継続	来年度からは2校担当している英語活動指導員が1日2校ではなく、1校を担当できるように勤務形態を変更する。また、ALT等の持ち時数に偏りがないように配置していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
ICT支援員の配置 (学校教育課)	7・8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	ICT支援員が全校配置となつてから4年目となる。今年度からは各校毎週1回の支援に増やし、授業をはじめ、1人1台端末の活用を着実に支援した。ICTが苦手な教職員もいるため、高く評価されている。	①継続	1人1台端末の活用に向けて、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図っていく必要がある。専門家であるICT支援員の配置は必須となる。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	5													
【再掲】 情報モラル学習の推進 (学校教育課)	8		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	小学生が、浜岡原子力発電所を見学し、原子力発電のしくみや安全対策の様子を中部電力職員から説明を受けた。また、各小中学校では、理科や社会の授業等で各発電のしくみを中部電力株式会社職員をゲストティーチャーに迎え学習した。	①継続	電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断する力を身につけるためにも継続する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
【再掲】 シニアスクール (学校教育課)	13		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	今年度から浜岡中学校図書館が開館し、市立図書館職員1人が学校図書館司書として勤務することになった。そのため合計4人の司書が各小中学校で図書担当職員と協力して読書活動の推進を行い、1人当たりの貸出冊数は過去5年間で約4倍に増加している。年2回開催した学校図書館連絡会では、地域で読書活動を推進している方の講話を聞いたり、各校の取組について情報交換したりして、読書活動の活性化に役立てることができた。	①継続	学校図書館連絡会や掲示板などを使って読書推進に関する情報を交換できるようにする。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	市立図書館職員と各小中学校の図書担当が連絡を取り合いながら、工夫した取組を行うことができた。例えば巡回貸出やテーマ貸出、市立図書館とのコラボ企画などである。コラボ企画では、市立図書館への来館を促すミッションも入れ、図書館に足を運ぶ機会を作ることができた。学校図書館だけではできないことが、市立図書館と連携することによって豊かな読書活動を行うことができた。	①継続	「子どもたちが本と親しむまち御前崎」を目指し、学校図書館連絡会や各学校との話し合いの場を通して、引き続き市立図書館と学校図書館相互の連携を図り、読書活動を推進する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
「しおかぜ先生」の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	不登校対策として、第一小と浜岡中が4名減少した。第一小学校では、昨年度に比べ不登校児童が増えているが、校外サニールームとの懸け橋となり、不登校児童に寄り添った指導を行った。	①継続	不登校の未然防止のために、相談役の教員の配置を継続し、その効果を検証する。不登校の早期対応を充実させるために、校内適応指導教室への配置について今後も検証するとともに、必要な人材確保に努める。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
学習支援員等の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	学校の実態に合わせ、各校の支援員数を調整した。入学当初の1年生や保健室への来室児童生徒へのきめ細かな対応が可能となり、落ち着いた学習環境づくりにつながっている。 各専門指導員は、外国人対応等それぞれの専門性を生かし、職員や児童生徒の指導・支援、ケース会議や各専門機関との連携等に力を発揮し、安定した学校運営を支えている。	①継続	年々、通常学級における特別支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、学習支援員の必要性はますます高まっている。各校の要望を聞き、効果的な配置にする。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
巡回相談、教育相談 (学校教育課)	-	100%	事業の 妥当性	5	巡回相談では園や各校のニーズに応じて効果的な相談ができた。回数増の要望はあるが、予算の関係で年2回ずつが妥当と考える。相談内容をできるだけ早く各園や学校に伝えることで情報の共有ができ、効果を上げることができた。教育相談は、件数が減っているため、案内の方法や申込方法を検討したい。	①継続 今年度同様、来年度も園や学校が必要な時期に巡回相談ができるように希望調査を取って計画する。メールを活用し案内や申込をネットで気軽にできるようにしたい。
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議 (学校教育課)	10	100%	事業の 妥当性	5	就学支援委員会では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、進路も見据えて適切な学びの場を判断することができた。昨年度まで課題となっていた情緒学級に勤める際の必要書類の提出についても、年度初めに園訪問やコーディネーター研等で周知を図り、見直しをもって対応することができた。 専門家チーム会議は年2回行い、個の実態を把握した上で、より良い支援の方法について話し合うことができた。	①継続 適切な学びの場の判断基準など就学支援に関わる内容について、年度初めのコーディネーター研で1年間の流れや資料の作成の仕方、学びの場について周知を図る。また専門家チーム会議のメンバーで、来年度から代わる方には目的や内容を周知していく。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
適応指導教室「サンルーム」 (学校教育課)	10	100%	事業の 妥当性	5	昨年度まで在籍していた児童生徒はすべて学校復帰を果たした。12月末時点で、12名の児童生徒が学んでいる。週1回程度、チャレンジ登校を行ったり、復帰した児童生徒の支援を目的に学校支援を行ったりした。	①継続 学校に通うことが難しい児童生徒の最後の砦として必要なため、学校との連携を密にし、不登校児童・生徒宅への家庭訪問等の働きかけも積極的に行う。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	5			
		効率性 (人員)	5			
いじめ問題対策連絡協議会 (学校教育課)	6	75%	事業の 妥当性	5	いじめ防止対策推進法の規定に基づき、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例を制定し、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会が設置されている。 いじめ問題専門委員会を開催して対応しなくてはならない重大事態は認知していない。 関係機関(警察・児童相談所・福祉課・こども未来課等)・小中学校生徒指導担当・SC・SSWが委員を務め、いじめの防止等に必要事項を協議したり、連携調整を図ったりすることを目的としているが、今年度はコロナウイルス感染症の拡大に伴い、来年度へ延期した。各校のいじめ防止基本方針については、生徒指導主事・主任研修会において見直し・共有を進めた。	①継続 いじめの積極的な認知と丁寧な指導を進めていくために、協力体制を継続する。
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	5			
		効率性 (人員)	5			



事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
家庭教育支援員の配置 (社会教育課)	5	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>家庭教育支援員は、幼稚園教諭や保育士OBを中心に6名委嘱し、家庭教育に資する事業を実施している。</p> <p>共働き親子へ夕食を安価で提供する事業「だれでも食堂もぐもぐ」は、民間団体「加多世(毎月1回)」「マツイ学園(年2回)」「ありがとう(年2回)」が主体となって開催している。団体が活動しやすいように、補助金制度を創設した。</p> <p>また、子育て家庭への支援・相談の機会として、親子を対象にした「あそび塾」を開催した。</p> <p>両活動へ家庭教育支援員が参画することで、親同士の交流や、家庭教育支援員への相談機会が増えた。</p>	<p>①継続</p> <p>「もぐもぐ」については、今後実施団体が増えるよう取組の周知等を実施していく。</p> <p>「あそび塾」についても継続して支援をできるよう努め、家庭教育に関する課題やニーズを検証し、新たな支援員確保に向けた検討をする。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
家庭教育学級への支援 (社会教育課)	5	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>今年度はコロナのために活動が縮小しているが、補助金を活用して5学級が開設し、演劇鑑賞や親子工作など親子活動を通して家庭教育の支援ができた。また、補助金交付要綱の改正を行い、補助率や見直し基準を定め、補助金の適正化を図ることができた。</p>	<p>①継続</p> <p>今後は、各園、学校が継続的な学習活動を推進できるよう支援する。</p> <p>また、充実した学習活動を図るため、学級間で情報交換ができるような取組を検討する。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
自発的な遊びや体験を充実させる環境作り (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>主体的な遊びや体験を積み重ねていくために、子どもたちの興味や関心、育ちを捉え、材の選定や配置、手作り玩具などの環境設定や環境整備について、研修などを通して学び、各園、各自が工夫しながら取り組むことができた。</p>	<p>①継続</p> <p>「夢中になって遊び込む子」を目指し、実態や発達に応じた環境やしかけについて研修を継続していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
園の読書環境の整備 (学校教育課)	3	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>子どもの発達や興味に合わせた毎日の絵本の読み聞かせや毎週の絵本の貸し出しは各園で定着し、継続して行われている。また子ども達が園生活において絵本に興味をもち、手にとりやすい環境の工夫も研修などを通して進んでいる。保護者に対して読み聞かせの大切さを園だよりや参観会等、様々な機会を通して発信している。 上記事業により乳幼児からの読書習慣を推進できた。</p>	<p>①継続</p> <p>子どもたちが絵本に触れたり、興味が持てる機会や環境整備の充実を継続する。親子の触れ合いのツールとして読み聞かせの効果について引き続き、発信していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	5												
地域の教育力を生かした保育の推進 (学校教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>コロナの感染状況を踏まえ、対策を講じながら、子ども達の豊かな経験や学びの為に、地域への園外活動や行事、活動の協力等園と地域の繋がりも再開している。また、園の環境整備等のボランティア等、様々な角度から地域の方が園を支えられており、地域の人・もの・ことに触れる活動の推進が図れている。</p>	<p>①継続</p> <p>園からも地域に向けて発信をしていくことで、より地域と繋がる、地域に根付いた園を目指したい。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
教諭・保育士対象各種研修会 (学校教育課)	4	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、日程の変更や研修方法の工夫をしながら、保育の質の向上に向けた研修を行った。特に乳児研、実技研は即保育実践に繋がり効果的であった。また、鳴門大学附属幼稚園 佐々木晃園長の全体会講話はDVDを作成していただき、各園でDVD聴講とした。勤務時間が様々な園の職員にとって、日程や時間に縛られず、全ての職員が無理なく受講できた。</p>	<p>①継続</p> <p>ネット環境を各園整備し、ZOOM等のリモート研修も取り入れることで有効かつ効率的な研修により職員の質の向上を目指す。また歳児別やキャリア別の研修を実施し、職員の主体的な研修への意識を高めたい。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
【再掲】 家庭教育支援 の推進 (学校教育課)	1 ・ 5		事業の 妥当性			
			効果性			
			効率性 (コスト)			
			効率性 (人員)			
【再掲】 アプローチ・ス タートアップ ブックの活用 (学校教育課)	4		事業の 妥当性			
			効果性			
			効率性 (コスト)			
			効率性 (人員)			
【再掲】 巡回相談、教 育相談 (学校教育課)	-		事業の 妥当性			
			効果性			
			効率性 (コスト)			
			効率性 (人員)			

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
個性伸長支援員の配置 (学校教育課)	10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	5	<p>個別の支援を要する子が年々増加傾向にあり、対応についても複雑化してきている。各園3歳以上には歳児ごと支援員1名以上を配置できている。しかし、支援を要する子が1クラスに複数いたり、長時間利用児や乳児への支援が必要となってきたりする現状にある。支援員の配置拡充とともに、適切な支援について研修などで学び充実させていくことは喫緊の課題である。</p>	③拡大	引き続き保育士の確保に努めるとともに長時間保育での必要に応じた支援員や1～2歳児への支援員の配置を検討する。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	5													
療育指導員による療育の推進と充実 (学校教育課・こども未来課)	5・10	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>学校教育課とこども未来課で連携を図りながら乳幼児の療育をすすめることができた。園訪問を実施することで園との連携もでき、教職員へのアドバイスや子どもの実態把握にも努めた。療育教室「ほっとケーキ」の参加人数(昨年度・今年度とも42名)が増えているため、療育指導員の人材確保、スキルアップが今後必要となる。発達相談を希望する保護者も増えてきているので、発達検査ができる療育指導員を確保、また育成し対応していく必要がある。</p>	①継続	早期療育に対する保護者への理解や啓発は引き続き丁寧な働きかけが必要である。療育指導員の園訪問や療育教室事業、相談事業を充実させるとともに、園での支援の底上げに力を入れていく必要がある。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	5													
効率性(人員)	4													
園職員の確保 (学校教育課・総務課・こども未来課)	-	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>「保育のお仕事フェア」を実施。5名の来場があった。(内保育士・幼稚園教諭資格有は2名)。乳児からの長時間就園の増加に伴い、早番遅番担当職員が不足しているため、引き続き人材確保が必要である。また、育休復帰の職員の仕事と家庭の両立や保育の多忙化や負担を軽減しつつ保育の質を維持させていくことは大きな課題である。</p>	①継続	保育士や幼稚園教諭の求人をかけても見つからない中、事務員や用務員等資格を持たなくても園を支える人材を配置していくことも総務課と検討していく。
事業の妥当性	5													
効果性	5													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
学校のICT環境の向上 (教育総務課)	8	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	3	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	4	<p>生徒がそれぞれPC端末を活用して授業を受けるスタイルが始まり、学習端末から教室の大型TVへの投影接続機器の整備を行った。</p>	③拡大	令和6年のデジタル教科書の導入に向け、学習環境の整備をする必要がある。ICT機器利用実績及び学校ニーズを踏まえ、1人1台端末下でのICT環境の整備を更に推進していく。
事業の妥当性	5													
効果性	3													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	4													

5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
【再掲】 学校のICT環 境の向上 (教育総務課)	8		事業の 妥当性		
			効果性		
			効率性 (コスト)		
			効率性 (人員)		
安全安心な教 育環境の向上 (教育総務課)	-	100%	事業の 妥当性	5	⑤転換  クラスを増減に応じた整備や、社会情勢やICT化の対応を行い、整備、維持管理に努める。併せて長寿命化計画に沿って、各校の大規模修繕を実施する。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	4	
新給食セン ターの建設 (教育総務課)	12	100%	事業の 妥当性	5	②完了  センター完成により事業は完了した。今後は御前崎市給食センターにて、運用及び維持管理を行っていく。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	
学校再編計画 の検討 (教育総務課)	11	100%	事業の 妥当性	5	①継続  検討委員会での意見を公表し、それを踏まえ、市の再編計画を作成していく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

5-2-4 子どもたちの心と体を支える安全で魅力ある学校給食の提供

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
食育指導の推進 (学校給食共同調理場)	12	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>食育指導の推進では、小学校からの依頼により、児童を対象とした栄養講座を行った。</p> <p>全小学校の学級活動や家庭科、総合的な学習で講師として授業に参画するとともに、給食時に訪問して食べる姿勢、マナー等の指導を行い、残食の減少・食物の好き嫌いを減らすなど『食』の意識を高めた。</p>	①継続	<p>『食』に対する関心を子どもたちにもっと深く持ってもらうため、今後も食育指導を通して推進を図る。</p> <p>また、学校給食を『生きた教材』として活用し、郷土食や行事、地場産物の活用を通して食への関心を深めていくよう努める。</p>
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													
地産地消の推進 (学校給食共同調理場)	12	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	<p>給食食材を購入するにあたり、地元産の食材を多く活用するよう努めた。コスト的には、他県産より割高の傾向にあるが、予算の範囲内で優先的に活用した。地産地消率では、市総合計画の最終目標値(令和7年)県内産63%、市内産31%に対し、県内産32.7%、市内産15.5%という結果だった。</p>	①継続	<p>可能な限り県内産・市内産の食材を活用し、今後も引き続き、市総合計画の最終目標値達成に向け、段階的かつ計画的に進めていき、地産地消の推進に努める。</p>
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	3													
安心安全、おいしい給食の提供 (学校給食共同調理場)	12	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>安心安全な給食の提供を確実にを行うため、毎日栄養教諭が委託業者と打合せし、衛生管理、調理・配送等の作業工程に対し指導を行った。</p> <p>また、センター職員・調理員に対し毎月2回の保菌検査を実施して衛生管理に努めた。</p> <p>毎月ふるさと給食の日を設け地元産食材を使った給食の提供を行った。また、季節ごとの行事に合わせた給食の提供を19回/年行い、魅力あるおいしい給食の提供に努めた。</p>	①継続	<p>今後も引続き栄養教諭と委託業者の打合せを行い、安心安全な給食を提供するとともに、子どもたち・保護者を対象にアンケート等を活用して、魅力ある給食の提供を進めていく。</p> <p>また、異物混入防止を図るため、安全管理の指導を引き続き行っていく。</p>
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
アレルギー対応 (学校給食共同調理場)	12	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>2</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	2	<p>食物アレルギーの症状を訴える子どもの数が増加している(前年度対比1.3%増)。</p> <p>食物アレルギー対応における事故防止のチェック体制は、センター所長、園長、校長が行う検食時に当日の食物アレルギー食の確認を行った。更に、食物アレルギー対応カードを用いて、栄養教諭、調理員、配送、園・学校の受取担当者及び担任の6段階によるチェック体制により連携を図りながら食物アレルギー事故防止に努めた。</p> <p>なお、今年度から『御前崎市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル』を策定し、除去食・代替食対応から除去食対応のみとした。また、対応品目数も無制限から28品目に改めた。</p>	<p>食物アレルギーの症状を訴える子どもの数が、年々増加の傾向にある。食物アレルギーによる事故防止に向け務めていく。</p> <p>①継続</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	2												
【再掲】 新給食センターの建設 (教育総務課)	12		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)			
事業の妥当性													
効果性													
効率性(コスト)													
効率性(人員)													

5-3-1 笑顔でつながる学びの輪の醸成

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
「おまえざき学びの航海図」の作成・活用と生涯学習講座等の充実 (社会教育課)	13	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>ライフステージごとの目指す姿、大切にしたい取組例を記し、自らのこれまでの歩みと、これからの歩み方を記載できるものを「学びの航海図」として作成できた。作成過程において、多世代による対話の場を開催し、活用においても自分史カフェを開催することで、自身の学びを知り、対話をすることで、学びを繋ぐ取組となった。また、学習したことを記すことができる「学びのパスポート」も作成した。「学びの航海図」「学びのパスポート」、「生涯学習学習ガイドブック」が連携することで、市民の主体的な学び、継続的な学びを進め、豊かな人生を思い描き、具体化していけるよう取組をすすめていく。</p> <p>なお、生涯学習ガイドブックにより講座情報を一元化し市民に分かりやすく周知できた。</p>	①継続 <p>広く学習機会の提供と継続した学びの推進に向けて、「学びの航海図」を活用し、多世代による対話の場を開催していく。そして、「学びのパスポート」によって、個々の学びを記録化を図る。生涯学習ガイドブックは、ダイジェスト版を作成し、市民に分かりやすく情報提供していく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												
「学びの循環」の仕組みづくりの推進 (社会教育課)	13 ・ 14	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>学びの団体、制度を洗い出し、その関係性が見える化し、役割を明確にし、学びによる人と人のつながりづくりや、学んだことを活かすための「学びの循環」の仕組みづくりを行った。</p> <p>また、庁内ワーキング会議により連携が図れたとともに、社会教育関係者を対象に交流研修会を開催し、学びの循環の意識を醸成をした。</p>	①継続 <p>継続して学ぶことができる環境を整えるために、講師など関係者の交流研修会を継続的に開催し、学びの循環の仕組みづくりの推進をしていく。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
社会教育学級活動への支援 (社会教育課)	13 ・ 14	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>コロナのために活動が縮小しているが、市内で活動する自主的な学習団体16学級が開設され、生活課題、地域課題など様々な分野に関する学び合いが行われ、地域コミュニティの向上に繋がる動きを支援することができた。講師への謝礼金や材料費などを補助し、充実した学習活動の一助となっている。</p> <p>また、来年度から補助率を定め、3年ごとの見直しを行っていくよう補助金交付要綱の改正を行った。</p>	①継続 <p>各団体が補助金を活用し、学習活動を継続的に推進できるよう支援する。</p> <p>なお、充実した学習活動となるよう、各学級の活動内容を情報交換できるような取組を検討する。</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												



5-3-2 市民の豊かな心を育み、暮らしに寄り添う図書館づくり

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
市立図書館の充実した資料収集 (図書館)	3	100%	事業の妥当性	4	<p>市民の関心や希望に応えられるよう図書館の選書方針に従い、図書資料を選書することができた。 また、資料のリクエストにも図書館としての必要性を見極めながら、可能な限り応えられるように努めた(リクエスト件数(4月～12月)の97%に対応)。</p> <p>①継続</p> <p>生涯学習を支える情報拠点として、市民ニーズや社会情勢に配慮したバランスのとれた資料の収集を計画的に進める。</p>
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	3	
図書館での展示や講演会など文化事業の開催 (図書館)	14	90%	事業の妥当性	4	<p>コロナの影響によって、取りやめを余儀なくされた事業や開催時期が遅れた事業もあったが、感染症対策を行った上で様々な展示や絵本作家による文化講演会や舞台俳優による出張劇場などを開催し、市民に対して文化・芸術に触れる機会を提供することができた。</p> <p>①継続</p> <p>市民に文化・芸術に触れる機会を提供するため、ウェブサイトやSNS等を通じて周知し、市民が興味を持つ文化事業を開催する。</p>
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	4	
読み聞かせなどのボランティアとの協働 (図書館)	3	70%	事業の妥当性	4	<p>読み聞かせボランティアグループの技術向上のための研修会は、コロナの影響によって実施できなかった。しかし図書館内での読み聞かせボランティアによる毎月第1土曜日の「土曜おはなし会」は、3回の中止以外、十分な感染症対策を施しながら実施し、本に親しむ環境づくりに寄与することができた。</p> <p>①継続</p> <p>読み聞かせボランティアグループの活動が図書館・園・学校等で活発に展開されるよう、県や県子ども読書アドバイザーなどと連携してスキルアップ研修などを開催する。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	5	
【再掲】市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	3		事業の妥当性		
			効果性		
			効率性(コスト)		
			効率性(人員)		

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向		
子どものための読書環境の整備 (図書館)	3	100%	事業の 妥当性	5	「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書活動を支援する取組を進める中で、園への読み聞かせや学校・園への巡回貸出、ハローブック事業への支援など様々な形で子どもたちが本に親しむ環境づくりに努めることができた。	①継続	「第2次御前崎市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書習慣の基礎となる乳幼児期から高校生までの読書活動を支援する取組を継続して行う。
		効果性	5				
		効率性 (コスト)	4				
		効率性 (人員)	4				
問題解決に対する情報提供などの支援 (図書館)	-	100%	事業の 妥当性	4	辞書や事典などの参考図書を充実させることによって、利用者の研究・調査に役立てることができた。 また、利用者からの42件(4月～12月)の相談に対して、的確かつ親切丁寧なレファレンスサービスが実施できた。	①継続	利用者が求める様々な問題解決への支援のため、職員のレファレンス力向上に繋がる研修に積極的に参加し、その研修内容を職員間で共有し職員全体のレベルアップを図る。
		効果性	4				
		効率性 (コスト)	3				
		効率性 (人員)	3				
電子情報の利用促進 (図書館)	-	100%	事業の 妥当性	4	ウェブサイトやSNSなどを活用し、イベントや展示、新刊図書などの情報発信・情報提供を積極的に行った。 また、新聞記事のデータベースについては、利用者に対して掲示板やデジタルサイネージなどで周知し利活用を呼び掛けた。	①継続	引き続き、利用者に対して積極的かつスピーディーに情報発信・情報提供する。 また、様々な発信媒体を利用し、ウェブサイトやデータベースサービスの利活用を促進する。
		効果性	4				
		効率性 (コスト)	3				
		効率性 (人員)	3				
図書館サービスとしてのレクリエーション (図書館)	-	-	事業の 妥当性	4	視聴覚室でのレクリエーション(ボードゲームなど)を計画していたが、昨年度に引き続き、コロナの影響によって実施できなかった。	①継続	図書館が市民の集う拠点となり、利用率向上に繋がる取組の一つであるため、内容を精査し、感染防止策を万全に施した上で実施可能なレクリエーションを検討する。
		効果性	-				
		効率性 (コスト)	-				
		効率性 (人員)	-				
ICT技術等を活用したサービスの推進 (図書館)	-	100%	事業の 妥当性	4	電子書籍の閲覧・貸出サービスの導入について、関係機関や既導入市への聞き取り調査などを実施し、導入の検討を行った。	①継続	さらに調査・研究を進めて、他市の動向などを把握し、早期導入実現に向け検討する。
		効果性	3				
		効率性 (コスト)	3				
		効率性 (人員)	4				

5-3-3 心身ともに健康な市民を目指したスポーツの振興

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
軽スポーツ教室・大会の開催 (社会教育課)	9	100%	事業の妥当性	4	①継続 例年参加している方が多く、新規参加者が少ない。より多くの市民へ知ってもらうため、広報の方法を検討する。スポーツ推進委員における各部の役割を明確にし、自主的に運営できるように支援していく。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	3	
マリンスポーツフェスタの開催 (社会教育課)	2	100%	事業の妥当性	5	①継続 会場の広さやスタッフ人数の課題もあり、今年の参加者は概ね適正であったと感じる。しかし、市外へも御前崎市の地域特性を活かしたマリンスポーツ活動をPRする必要があるため、徐々に対象者を増やしていくなど見直しを行い、今後も事業を継続していく。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	3	
			効率性(人員)	4	
静岡県市町対抗駅伝への参加 (社会教育課)	9	100%	事業の妥当性	4	①継続 清水監督が就任し5年目にとり、現体制での選手育成・強化の方向性について成果が出てきている。駅伝自体が市町対抗としての側面が大きくなる一方、本来の目的でもあるジュニア世代の育成が重要であると考えため、練習会を通じて駅伝への関心を高めることで楽しく運動をする機会を提供し、小中学生の陸上競技人口を増やしていきたい。
			効果性	4	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
御前崎市振興公社との連携によるスポーツ振興 (社会教育課)	14	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	<p>振興公社による体操、プールやテニス教室など社会教育施設を活用しながら様々なスポーツ教室を実施した。今年度も新型コロナウイルス感染拡大により一部教室が中止となったが年間を通じて多くの市民が参加する機会を提供し、スポーツ振興と健康増進が図ることができた。</p>	①継続	引き続き振興公社と連携して、市民にスポーツを通じて健康維持と生きがいづくりに繋がるように連携していく。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	3													
県立池新田高校との連携 (社会教育課)	14	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	4	<p>池新田高が地域の特性を活かしながら新設したスポーツコースの生徒に対し、マリンスポーツの講師を派遣することで海洋スポーツを体験してもらい、御前崎の海の良さを知ってもらうとともに、将来の職業について考えるきっかけづくりを行うことができた。</p>	①継続	海洋スポーツの普及と、地元高校における郷土愛の醸成に向け、講師を派遣し、事業を実施していく。今後独自運営ができるように連携していく。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	4													

5-3-4 文化・芸術の継承と振興及び文化財の保護と活用

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
文化・芸術にふれる機会の提供 (社会教育課)	14	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	御前崎市振興公社と連携した文化事業や、教育委員会主催による埋蔵文化財及び指定文化財の出張授業、文化財講座など、文化や文化財にふれる機会を提供した。 また、文化施設においても、清川泰次芸術館で市民ギャラリーを開催し集客を図った。また丸尾記念館で伝統文化親子教室や牧之原開墾150周年記念講演会、企画展、お茶会を開催することで、文化施設の積極的な活用を図り、文化・芸術にふれる機会を提供した。	①継続	文化・芸術にふれる機会の提供については、市民の芸術文化意識の向上に資するため関係団体と連携し、市民ニーズにあった事業を推進していく。また、文化施設については、引き続き適正管理に努め積極的な活用を図っていく。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	3													
【再掲】 図書館での展示や講演会など文化事業の開催 (図書館)	14		<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td></td> </tr> </table>	事業の妥当性		効果性		効率性(コスト)		効率性(人員)				
事業の妥当性														
効果性														
効率性(コスト)														
効率性(人員)														
文化祭の開催 (社会教育課) 代替: 芸能発表会の開催	14	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	市文化協会と連携し、様々な団体や個人の文化活動を披露する文化祭の開催を予定したが、コロナのために中止とした。代替として、文化協会の芸能発表会を開催し、会の成果発表とともに文化活動の普及促進を図った。	①継続	文化祭芸能部門・展示部門ともに、多くの一般参加者が参加してもらえるような体制を作り、市内の文化交流をさらに図れるように努める。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	3													
効率性(人員)	3													

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
「文芸おまえざき第18号」の発刊 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	市民・市内出身・在勤者76人から106作品の応募があり、発刊を継続することができた。投稿者数にばらつきはあるが、市民への文芸に対する関心を高めることができた。	①継続 引き続き市民の創作発表の場づくりを進める。 投稿者が固定化されている感があるため、新規投稿者の獲得に向けて更なる周知を図っていく。
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	3												
御前崎市振興公社との連携による文化振興 (社会教育課)	14	70%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	振興公社による絵画、陶芸、書き方教室など様々な文化芸術に親しむ機会を提供した。コロナのため一部教室が中止となったが、感染対策をする中で多くの市民の参加があり、文化振興を図った。	①継続 引き続き、振興公社と連携して、市民の芸術文化意識の向上に資するため新たな事業についても検討していく。
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	3												
市民会館・文化会館等の整備・改修 (社会教育課)	15	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	文化会館が築36年、市民会館が築44年を経過し、この他の施設においても老朽化により不具合が生じており修繕工事等を実施した。また、今後継続して安心安全な施設として場を提供し、維持管理していくために、昨年度実施した老朽化調査に基づき、文化会館、市民会館、丸尾記念館、清川泰次芸術館における中長期保全計画を策定した。	①継続 公共施設マネジメントとして施設のあり方を再検討する。施設にあつては、中長期保全計画を基に計画的な修繕工事を実施する。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	3												
ウミガメの保護活動 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	ふ化頭数は1,217頭でふ化率は40%、前年よりふ化率は13%増加した。一方、今年度の上陸頭数は50頭、産卵頭数は26頭と大幅に減少している。上陸・産卵頭数の減少の原因として、産卵地である海岸環境の悪化が挙げられる。主な産卵地である下岬海岸については、SDGsの14海の豊かさを守ろうを目標として、産卵地となる砂浜の流木・漂着ごみの撤去を行い、環境の保護に努めた。また、御前崎市のホームページに掲載してウミガメ保護についての情報を発信している。	①継続 ウミガメ保護活動及びふ化率に関しては、専門家の意見を取り入れ活動の検討を行う。 また、産卵地の環境保全のため、海岸流木を含めた漂着ごみ等の撤去については、関係団体と情報共有、連携する中で自然環境を守る。
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	3												

事業	重点取組	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
文化財等の整理・保存事業 (社会教育課)	-	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	3	<p>浜岡町史編さんなどで収集及び撮影した古文書や古写真(約5,000枚)などの史料の整理・保存を会計年度任用職員を1名雇用して実施した。また、市民から寄贈等された民具や遺跡から出土した埋蔵文化財などを台帳に記載するとともにカード化し、整理や保存を図った。</p>	<p>①継続</p> <p>古文書や古写真等の史料は、市の歴史に詳しい人でなければ整理することが難しいため、継続して史料整理を進める。また、保存と活用については、効率化を図るため、民具台帳のデジタル化など外部委託を行い、今後の保存活用に備える。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	3												
文化財による郷土の誇りを育てる事業 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>第一小6年生を対象に昔の火起こしや勾玉づくり、文化財を保護する仕事について、浜岡北小6年生を対象に「旧朝比奈小学校の青い目の人形」についての指定文化財出張授業を行い、文化財を通じて子どもたちの郷土愛の醸成に向けた取組を行った。また、白羽地区の文化財を学ぶ文化財講座を2回開催し、延べ48名の市民が参加した。</p>	<p>①継続</p> <p>埋蔵文化財出張授業による体験活動を通じて楽しみながら歴史に興味を持ってもらうように努めるとともに、文化財講座の開催により少しでも多くの人に地域の文化財を理解してもらうように年2回開催する。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
「文化財年報」の作成 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	3	<p>今年度実施した文化財事業内容をまとめ、記録保存を図るとともに、ウェブサイトに掲載してデジタル配信を行い活用を図った。</p>	<p>①継続</p> <p>文化財保護事業の実施状況、文化を後世に伝えるため引き続き文化財年報を作成する。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	3												
丸尾文六による牧之原開墾150周年記念事業 (社会教育課)	-	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>牧之原開墾150周年を記念して「丸尾文六による牧之原開墾」についての講演会や企画展、及びお茶会を開催し、丸尾文六の業績について知らせ、丸尾記念館への集客を図った。</p>	<p>②完了</p> <p>牧之原開墾150周年記念のため、今年度のみ事業として完了した。</p>
事業の妥当性	4												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												

## V 令和3年度教育委員会の活動

### (1) 御前崎市教育委員会委員の名簿

(令和4年3月現在)

役職名	氏名	任期
委員	竹田和世	令和元年6月24日～令和5年6月23日
委員	島田恵美	平成30年6月24日～令和7年6月23日
委員	松林義樹	令和2年6月24日～令和6年6月23日
委員	野口智美	令和3年6月5日～令和4年6月23日
教育長	河原崎全	平成30年4月1日～令和6年3月31日



(2) 協議事項

項目	件数	内容
(1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。	1	○令和4年度重点取組(案)について について審議した。
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関する事。	2	○御前崎市立小・中学校処務規定の一部改正について ○御前崎市教育委員会事務局組織規則の改正について について審議した。
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和3年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	1	○令和4年度当初予算案(2月) について具申した。
(5) 社会教育委員、社会教育指導員及び図書館協議会委員を委嘱すること。	2	○社会教育委員を任命・委嘱した。
(6) 教科用図書の採択に関する事。	1	○令和4～6年度使用の中学校教科用図書を採択した。
(7) その他	6	○令和3年度準要保護児童生徒の認定について ○令和4年度準要保護児童生徒の認定について ○御前崎市教育委員会職員人事異動について について審議した。

## VI 総合評価

### 総合評価-コロナ禍における「執行度 100%」の意義と意味-

常葉大学 堀井啓幸

御前崎市教育委員会の自己点検・評価に関わらせていただいて3年になる。この2年間はコロナ禍で対面活動が制限される状況にあって、教育委員会の活動も難しいかじ取りが求められたと思われるが、令和3(2021)年度は、令和2(2020)年度よりも「執行度100%」という項目が多くなっており、コロナ禍でも多様、多量な教育事務を着実に管理・執行されてきた教育委員会の活動を高く評価したい。

それぞれの取組における事業内容が若干異なるので単純な比較は難しいものの、具体的に重点取組の自己点検・評価を執行度の視点から2020年度と比較してみると以下のような結果(%)になっており、執行度はすべての取組において高くなっている。

重点取組(継続事業)	2021年度	2020年度
1 生活習慣(学習習慣)の定着	87.5	80
2 市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成	96.7	77.5
3 読書・読み聞かせの推進	95.0	91
4 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続	100	81.7
5 家庭教育支援の充実	90	90
7 基礎学力の向上と得意分野の伸長	100	87
9 学校教育・社会教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり (2020年度は「心身ともにたくましい子どもの育成」)	100	85
10 不登校・特別な支援を必要とする児童生徒への対応	100	92.9
14 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興	81.3	79.3
17 教職員の働き方改革の推進	100	80

ちなみに、令和3年度の新規の重点取組の執行度は、以下のようなものである。「互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組」について若干評価が低いですが、コロナ禍であっても「今年度執行予定の事業を今年度3月までにどれだけ実行できたか」を示す「執行度」はほぼ100%近く実施されている。

重点取組(新規事業)	2021年度の執行度
6 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組	75
8 一人一台端末の効果的な活用	96.7
11 学校再編計画の検討	100
12 新学校給食センターの円滑な稼働	92.0
13 ライフステージごとの学びの提供	88.0
15 各文化施設の中長期改修計画及び社会教育施設使用料の検討	100
16 新型コロナウイルス感染拡大への対応	100

今日、教育行政において、証拠（エビデンス）に基づく政策立案（Evidence-Based Policy-Making）が求められている。本報告書でも、令和3年度の事業について進捗状況を個別具体的に詳細に振り返り、その結果が「執行度」や「妥当性」「効果性」「効率性（コスト・人員）」の評価として表されている。筆者自身が御前崎市の幾つかの教育事業に参加している立場からいえば、本報告書の振り返りは概ね妥当であると思われる。

ちなみに、筆者が研究分担者として参加した国立教育政策研究所「令和元年度～令和2年度プロジェクト研究 児童生徒の安全・安心と学校空間に関する調査研究（研究代表者：国立教育政策研究所文教施設センター 丹沢広行）」（報告書、2021年3月）では、児童生徒の安全・安心に関わって日常的な話し合いがあまりなされていないことで共通理解が進んでいない縦割り行政の弊害を再認識させられた。状況は異なるが、御前崎市は「スクラム御前崎」という機軸があって、御前崎市の教育行政や学校教育が日常的に「スクラム」を組んで対応することで共通理解がしやすい政策立案の土壌を作っていることがコロナ禍であってもこうした成果を上げているのではないかと推察する。教育事業を執行する当事者としての教育行政職員がどこまで自覚しているかわからないが、非常事態でも顔を合わせて臨機応変に対応を話し合えるという、おそらく御前崎市の教育風土に由来するであろう「スクラム」の姿勢が「執行度100%」の活動を作り上げている。今年度、御前崎市の「教育振興基本計画」（「御前崎市教育大綱」に連動）が策定され、計画の達成が短期、中期、長期に目指される中で、御前崎市教育委員会には「スクラム」をさらに厚くして継続してほしい。

ただし、「執行度100%」の項目について、自己点検・評価の主な指標になっているがゆえに、何をもち「執行度100%」といえるのか、市民目線で報告書を読んでいくとそのエビデンスが十分ではないとみられてしまうのではないかと気になる点もある。筆者が自己点検・評価に関わらせていただく以前の報告書では、1教育委員会の活動、2教育委員会が管理・執行する事務、3教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務と、3つの大項目に区分して評価を行ってきた。現在の重点取組の達成度は、重点取組を構成するそれぞれの個別具体的な事業について御前崎市教育委員会の自己点検及び評価を行い、その集計値として割合が示されるようになり、多量な教育事務を整理するマトリックスとしてわかりやすくなった。しかし、その一方で、それぞれの取組を管轄する部署において、「教育振興基本計画」等における重点取組の位置付け、重点取組と各事業との関わりなどをきちんと把握できていないとトータルな取組としての実績や課題がわかりにくく、説明力（accountability）に欠けてしまう側面も危惧される。一般的には、それなりに具体的な「目標」があって、それに対する「実績」があって、それを踏まえて「執行度〇%」といえるのであるが、施策の取組の目標設定が抽象的で、エビデンスとしての資料やデータが今一つ見えにくい項目がある。

特に「執行度100%」となると本当にやり切った状況なのか、課題はなかったか、課題を踏まえて来年度はどのような改善策を考えたらよいか、いわゆるPDCAの視点に立った明確な対応と「子ども（市民）の変化」という視点でさらなるエビデンスが求められよう。